

介護職員等処遇改善加算における職場環境要件

社会福祉法人 安心会

【入職促進に向けた取組】

○他産業からの転職者、主婦層、中高年齢者等、経験者・有資格者等にこだわらない幅広い採用の仕組みの構築（採用の実績でも可）

→経験の有無・年齢資格に関わらず、他業種からも採用実施している。

○ 職業体験の受入れや地域行事への参加や主催等による職業魅力度向上の取組の実施

→主に安心院町内の小学校・中学校・高校の生徒による職場体験やボランティアの受入れを行っている。また、教員免許志願者体験学生の受入れも行っている。

【資質の向上やキャリアアップに向けた支援】

○働きながら介護福祉士取得を目指す者に対する実務者研修受講支援や、より専門性の高い介護技術を取得しようとする者に対するユニットリーダー研修、ファーストステップ研修、喀痰吸引、認知症ケア、サービス提供責任者研修、中堅職員に対するマネジメント研修の受講支援等

→資格取得規程に基づき、講習会・研修会・資格試験等の情報の提供、勤務日割振及び年休取得への配慮、初任者研修・実務者研修・認知症実践者研修・認知症実践者リーダー研修等費用等法人負担としている。

○上位者・担当者等によるキャリア面談など、キャリアアップ・働き方等に関する定期的な相談の機会の確保

→資格取得等の助言や定期的に個人の働き方の相談を行っている。

【両立支援・多様な働き方の推進】

○ 職員の事情等の状況に応じた勤務シフトや短時間正規職員制度の導入、職員の希望に即した非正規職員から正規職員への転換の制度等の整備

→非正規職員から正規職員への転換については、個人の働き方の相談を行い、受け入れ態勢を整えている。また、子育て等による短時間正規職員の働き方の導入実施。

○ 有給休暇を取得しやすい雰囲気・意識作りのため、具体的な取得目標（例えば、1週間以上の休暇を年に●回取得、付与日数のうち●%以上を取得）を定めた上で、取得状況を定期的に確認し、身近な上司等からの積極的な声かけを行っている。

→毎月の役職会議にて有給取得を各事業所責任者に説明している。本年は、付与日数のうち50%以上の取得を目標としている。

【腰痛を含む心身の健康管理】

○ 短時間勤務労働者等も受診可能な健康診断・ストレスチェックや、従業員のための休憩室の設置等健康管理対策の実施。

→健康診断は、週20時間以上勤務の職員に対して実施、ストレスチェックは、週30時間以上勤務の職員に対して実施している。

○ 介護職員の身体の負担軽減のための介護技術の修得支援、職員に対する腰痛対策の研修、管理者に対する雇用管理改善の研修等の実施

→介護職員のノーリフティングへの取り組みとして、介護ロボット等を導入し、負担軽減を図っている。更に腰痛予防ベルトの貸与も行っている。

【生産性向上のための取組】

○ 厚生労働省が示している「生産性向上ガイドライン」に基づき、業務改善活動の体制構築（委員会やプロジェクトチームの立ち上げ、外部の研修会の活用等）を行っている

→各部署リーダー等による委員会を立ち上げ各部署の課題の分析、改善に取り

組んでいる。

○ 介護ソフト（記録、情報共有、請求業務転記が不要なもの）、情報端末（タブレット端末、スマートフォン端末等）の導入。

→介護記録の負担軽減の為介護ソフト導入、タブレット端末、スマートフォン端末等を導入し活用している。

○介護ロボット（見守り支援、移乗支援、移動支援、排泄支援、入浴支援、介護業務支援等）又はインカム等の職員間の連絡調整の迅速化に資する ICT 機器（ビジネスチャットツール含む）の導入。

→介護ロボットとして、居室の見守り機器センサーの導入、移乗介助支援機器導入、またインカムを導入し職員間の連絡を密にし、ご利用者に対応している。

【やりがい・働きがいの醸成】

○ ミーティング等による職場内コミュニケーションの円滑化による個々の職員の気づきを踏まえた勤務環境やケア内容の改善。

→各部署によるミーティングの実施、不在職員への連絡等情報共有の工夫を行っている。また、接遇コーナーチェックシートの活用し、研修や面談を行っている。

○地域包括ケアの一員としてのモチベーション向上に資する、地域の児童・生徒や住民との交流の実施。

→各学校からの職場体験の受け入れや職員による学童の交通安全の為、学校交差点付近での安全運転等啓発活動を毎月行っている。